

2021年8月期 通期 決算説明資料

2021年10月15日 | 証券コード：9264



IRメール配信登録

<https://www.magicalir.net/9264/mail/index.php>

- 会社概要
- 当社の強み
- 今後の成長戦略
- 2021年8月期連結業績
- 2022年8月期通期業績見通し
- Appendix

- 会社概要
- 当社の強み
- 今後の成長戦略
- 2021年8月期連結業績
- 2022年8月期通期業績見通し
- Appendix

「お客様第一主義」

世界に通用する技術・商品の開発
社員一人一人、個性の尊重及び力の結集
社会の変化を先取りし、自らも進化する
これらのことを総合し、企業価値の増大を図る

会社名	ポエック株式会社 Puequ Co., LTD.
代表者	代表取締役会長 来山 哲二 代表取締役社長 采女 信二郎
所在地	広島県福山市南蔵王町2-1-12
事業内容	1. ポンプ、送風機、空調機、工場設備機器の販売 2. 機器類修理、保守点検、設計施工 3. 防災機器の販売 4. 産業設備機器の販売
資本金	1,062,420,380円（2021年8月現在）
設立	1989年（平成元年）1月25日
従業員数	70名／連結224名（2021年8月現在）
上場取引所	東京証券取引所 JASDAQ市場（証券コード 9264）
事業拠点	仙台・北陸・東京・名古屋・大阪・岡山・広島・福山・松山・高松・福岡

ポンプ・イクイップメント・エキスパート

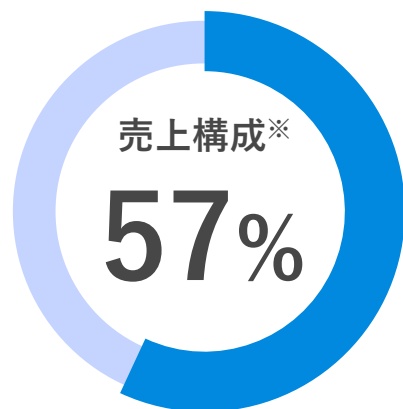
(Pump Equipment Expert : ポンプ装置の専門家)

ポンプメーカー出身の2人の創業者が
ポンプ装置に特化した会社を目指したことに由来。
現在では、社会インフラを支えるプロフェッショナル集団として、
ひと・みず・くうきに関するあらゆる分野での成長を目指す。

ひと・みず・くうきに関わるビジネスを展開

環境・エネルギー事業

環境・水処理機器の製造・販売・修理及びメンテナンス等技術サービス



取扱製品

環境関連機器

- ・ 水処理機器（ポンプ類、攪拌機等）

環境改善機器

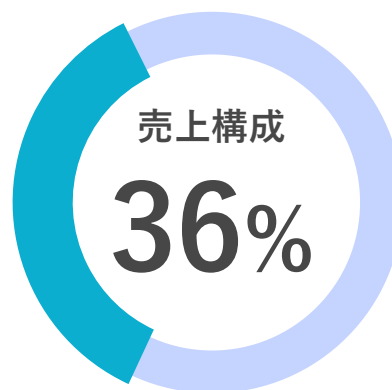
- ・ 景観配慮型防潮壁（SEA WALL）
- ・ オゾンガス発生装置
- ・ 窒素ガス発生装置
- ・ オゾン水製造装置
- ・ オゾン脱臭装置

エネルギー関連機器

- ・ プレート&シェル熱交換器

動力・重機等事業

船舶用機械及び部品、プラント関係機器及びその他動力関係部品の製造・販売



取扱製品

船舶用機械及び部品

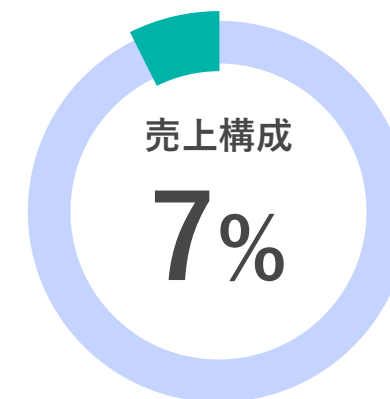
- ・ エンジン台板
- ・ 小型精密部品（燃料噴射弁等）

プラント関係機器

- ・ ボイラー・圧力容器等

防災・安全事業

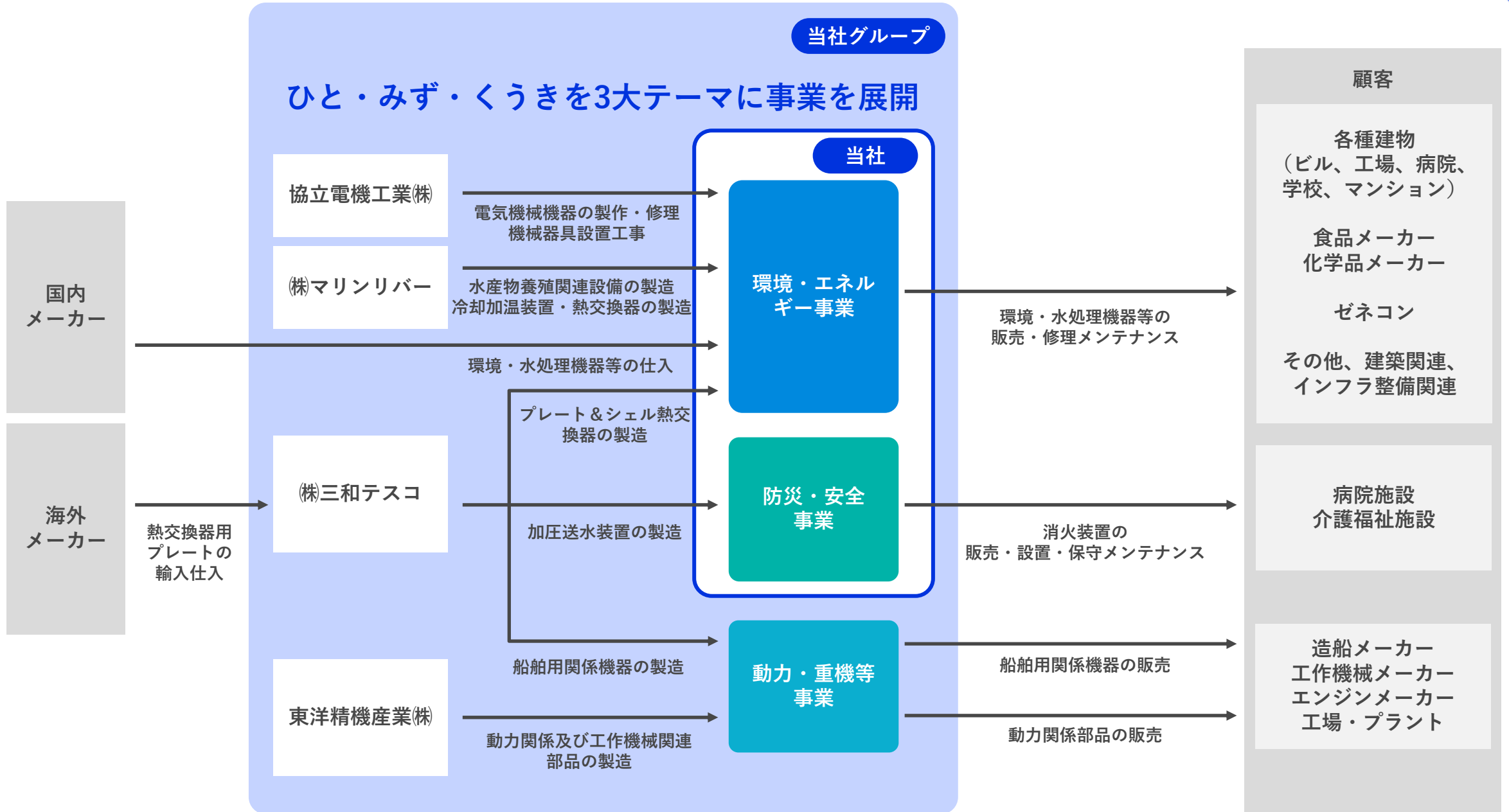
消火装置、その他消防機器の製造・販売・設置装置の保守及びメンテナンス等技術サービス



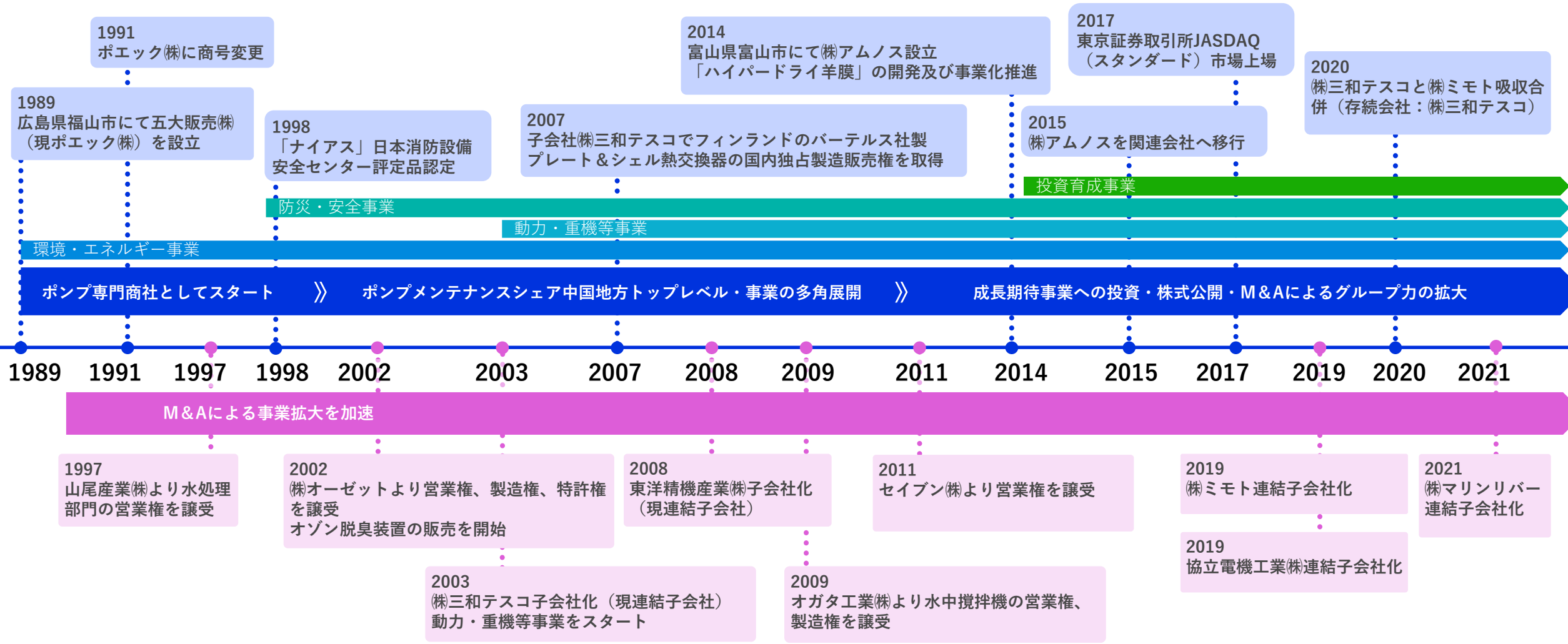
取扱製品

- ・ 屋内・屋外消火栓
- ・ スプリンクラー消火設備用加圧送水装置

※ 2021年8月期連結売上高に占める各事業の売上高



ポンプ専門商社として創業、現在では水と空気に重点を置いた 環境装置全体に分野を拡大



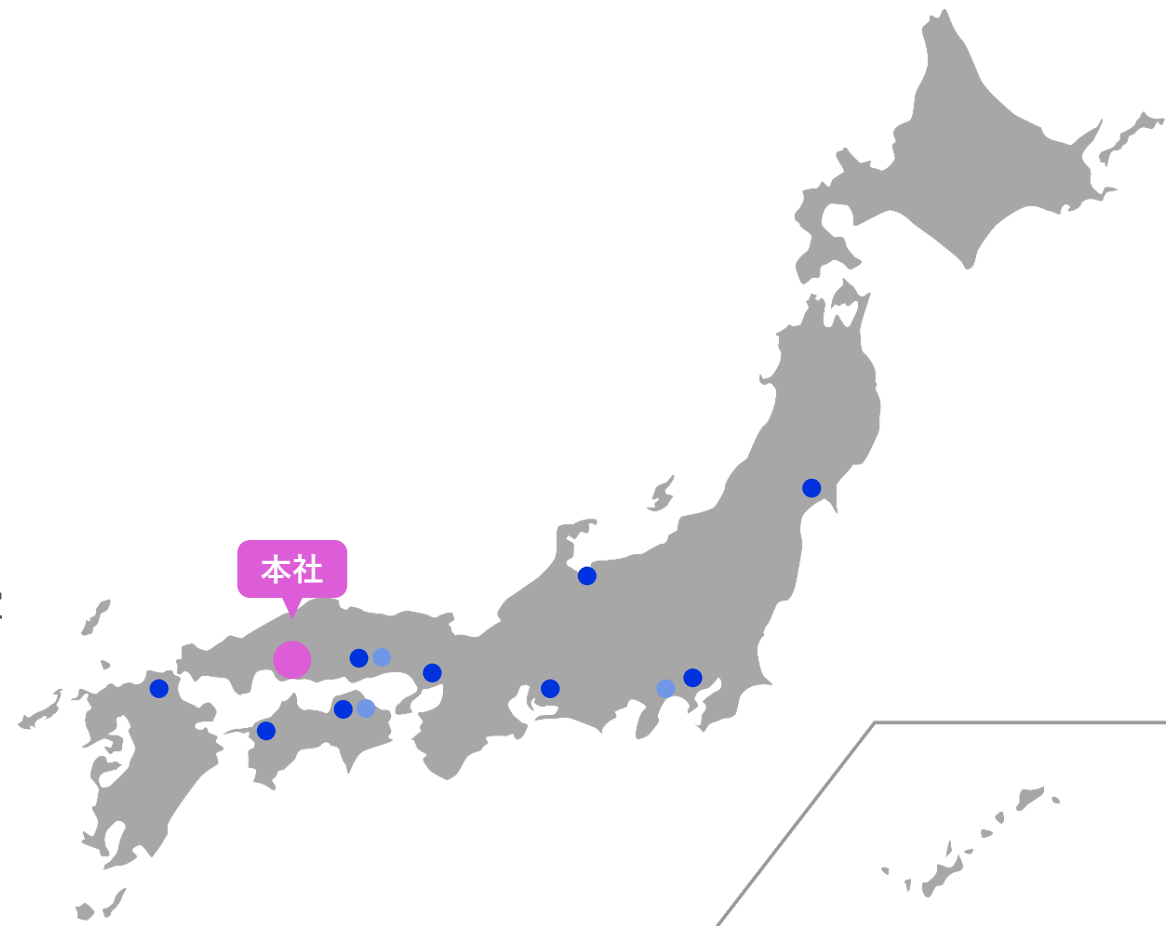
全国9事業所、2出張所、連結子会社4社で事業を展開

事業所

- 本社福山営業所 広島県福山市南蔵王町2-1-12
- 東京営業所 東京都中央区日本橋小舟町15-17 日本橋協栄ビル4F
- 仙台営業所 宮城県仙台市太白区西多賀3-7-38 ディライト西多賀103
- 北陸営業所 富山県富山市高田527 4F
- 名古屋営業所 愛知県清須市阿原星の宮189-1 アクティブ星の宮 A号室
- 大阪営業所 大阪市淀川区木川東3-5-10
- 岡山営業所 岡山県岡山市南区新保1308-2
- 広島営業所 広島県広島市西区中広町3-18-21 コーポラスナガイ102
- 高松出張所 香川県高松市朝日町4-11-67
- 松山出張所 愛媛県松山市北土居4-5-17 1階
- 福岡営業所 福岡県太宰府市国分1-1-41 オフィスパレア太宰府III 1号室

連結子会社

- 株式会社三和テスコ 香川県高松市 出資率100%
- 東洋精機産業株式会社 岡山県岡山市 出資率100%
- 協立電機工業株式会社 神奈川県茅ヶ崎市 出資率100%
- 株式会社マリンリバー 福岡県糟屋郡 出資率100%



- 会社概要
- 当社の強み
- 今後の成長戦略
- 2021年8月期連結業績
- 2022年8月期通期業績見通し
- Appendix

ひと・みず・くうきにかかわるビジネスに投資・育成し、 それぞれの企業価値とグループ価値を高める

環境・エネルギー事業

動力・重機等事業

防災・安全事業

+

投資育成事業
新たな成長事業の育成

重点成長
期待事業

環境改善機器
(オゾン発生装置・防潮壁)
販売

消火装置の
製造・販売・設置

再生医療
(乾燥羊膜の製造販売)

安定収益
基盤事業

水処理機器
(ポンプ類・攪拌機)
販売・技術サービス

プラント・船舶用
機器の製造・販売

これまでに合計9件のM&Aを実行し、事業を拡大 技術を見つけ、育て、活かすM&A戦略

1997

2002

2003

2008

2009

2011

2019

2021

当社初のM&A

山尾産業(株)より水処理部門の営業権を取得し、ポンプ事業強化

オゾン脱臭装置事業へ参入

(株)オーゼットよりオゾン脱臭装置の営業権、製造権、特許権を取得

製造拠点の拡大 / 動力・重機等事業スタート

当社企画・開発製品の製造拠点とすることを目的として、独自の製缶・溶接技術を保有する(株)三和テスコを子会社化し、メーカー機能を強化

製造技術力強化

グループの製造技術補完のため、一貫生産体制で高品質な精密機械加工及び熱処理に強みを持つ東洋精機産業(株)を子会社化

水中攪拌機製造技術の取得

オガタ工業(株)より水中攪拌機の営業権及び製造権を譲り受け、攪拌機製造技術を取得しメーカー機能を強化

販売チャネル拡大と人材強化

セイブン(株)より営業権を譲り受け、販売チャネルと人材を獲得

「ナイアス」製造工程の一部内製化

過去より外注委託取引のあった三和テスコとの連携による経営効率化及び相乗効果を目的として(株)ミモトを子会社化(2020年に三和テスコと合併)

関東地方進出の足掛かり

販路拡大、関東圏での受注拡大のため機器メンテナンス・修理に強みを持つ協立電機工業(株)を子会社化

シナジー創出と周辺分野への進出

製造面でのシナジーおよび販売面でのクロスセルを目的として、養殖設備製造ニッチトップ企業の(株)マリソリバーを子会社化

高い専門性 × 対応力 × エリア拡大 = ポエックの総合力



豊富な経験に裏付けされたポンプに関する高い専門性

幅広い分野からの依頼に応えてきた経験豊富な熟練技術者が多く在籍し、高い専門知識を保有

あらゆるポンプを知り尽くした幅広い対応力

ビル、工場、病院、学校、マンションなどの各種施設、
汚水処理用、防災用、排水用、スプリンクラー用など、各用途
また全メーカーのポンプにワンストップで対応可能
新規販売・買い替え・修理メンテナンスの全てのニーズに対し
スピーディーにソリューションを提供

広範囲をカバーする組織的なメンテナンス体制

全国 9事業所、2出張所、連結子会社で展開
今後さらにカバーエリアを拡大

革新的な環境・防災機器により持続可能な社会の実現に貢献

- 政府の掲げる防災・減災、国土強靱化対策需要の高まりにより、今後拡大が期待される市場
- 気候変動の影響により激甚化・頻発化する気象災害や、切迫化する大規模地震に備え、被害を防止・最小化するための環境・防災機器の開発・製造・販売を推進

停電・断水時も作動する消火装置「ナイアス」

消防法によりスプリンクラー消火設備の
設置義務のある病院や福祉施設を中心に販売拡大

BCP

防災



福祉施設（スプリンクラー設備）

販売開始以来
累計販売台数

760 台超

累計販売金額

4,401 百万円

海沿いの景観と安全を守る防潮壁「SEAWALL」

推進協議会の代表企業として取扱強化
港湾の津波対策事業の推進に伴い受注増加

津波

高潮



兵庫県芦屋市 南芦屋浜

2018年販売開始以来
累計販売金額

595 百万円

コア事業による安定収益をベースに、成長性の高い分野へ積極的に投資・進出

ポエック × 東北大学

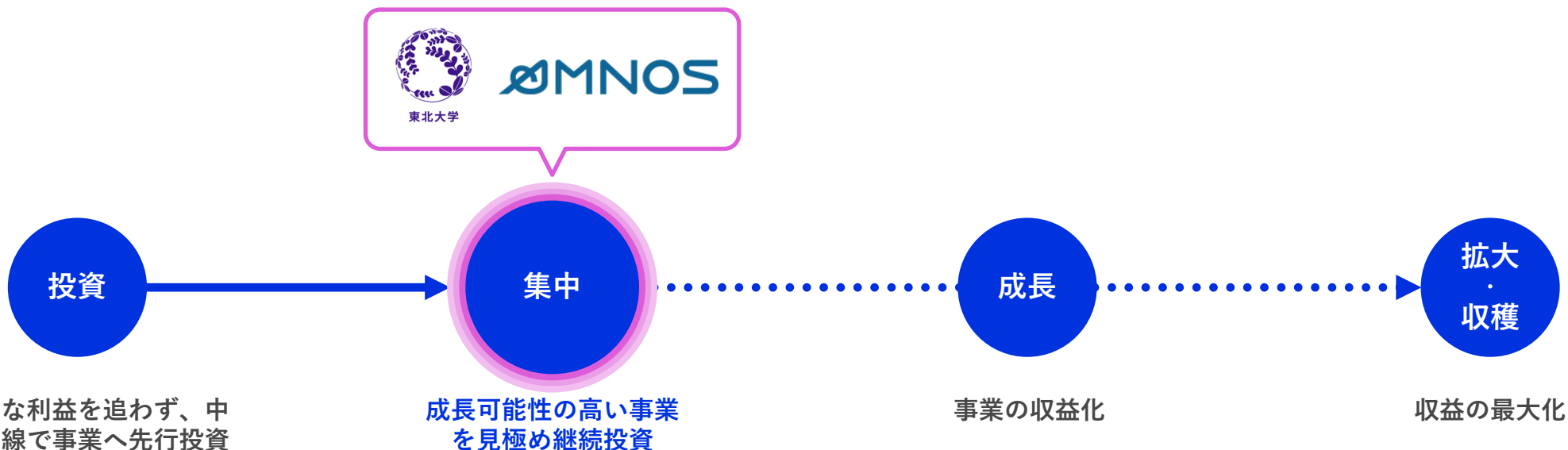
産学連携でオゾン装置開発における共同研究を推進

オゾンによるウイルス不活性化技術を活用した
新製品開発と市場への早期投入を目指す

ポエック × AMNOS

既存事業の原資を将来性の高いビジネスに投資

実用化が期待される再生医療分野へ積極的に投資。今後、韓国での販売実績を積み上げ、日本および海外での事業展開を目指す



- 会社概要
- 当社の強み
- 今後の成長戦略
- 2021年8月期連結業績
- 2022年8月期通期業績見通し
- Appendix

1. 環境・エネルギー事業

- メンテナンスサービスの強化とエリア拡大
- 社会課題解決型商品の販売拡大

2. 動力・重機等事業

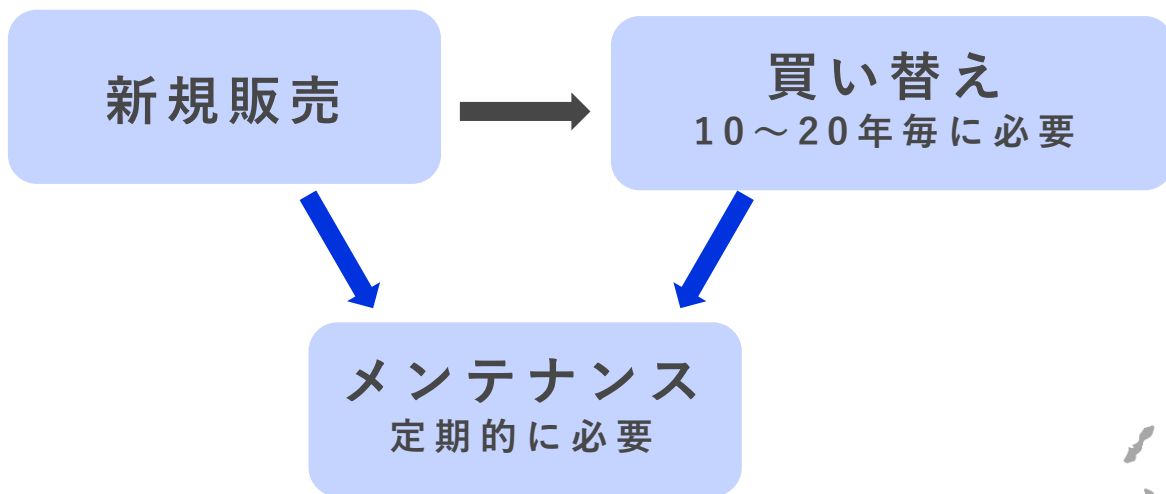
- 新分野の開拓と市場ニーズへの対応

3. 防災・安全事業

- 消火装置「ナイアス」の販売拡大

4. 成長加速に向けたM & A戦略

安定的な需要環境の下、ポンプ事業の強みであるメンテナンスサービスを活かし、 エリアを全国へ拡大しスケールメリットを最大化



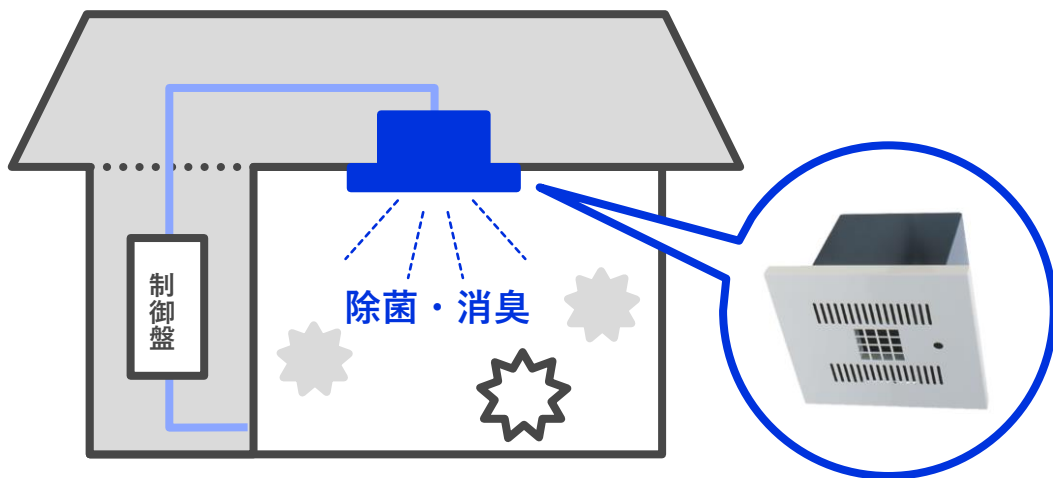
新規販売・買い替えでの取引開始を機に、その後継続的に発生するメンテナンス需要を取り込み、安定的に収益を確保できるストックモデルを確立



社会課題解決型商品の販売を拡大 社会課題の解決への取り組みと環境改善機器事業の拡大を両立

オゾン装置

- 感染症対策を背景とした除菌設備への関心の高まりを受け、新設需要・更新需要を確実に取り込む
- 東北大学との共同研究によるウイルス不活性化技術の開発、製品化、早期の市場投入を目指す



SEAWALL

- 災害対策への関心の高まりと継続的な営業活動により多数の引き合いあり、今後刈り取りフェーズへ移行
- 大型公共事業を中心に、引き続き受注獲得に注力

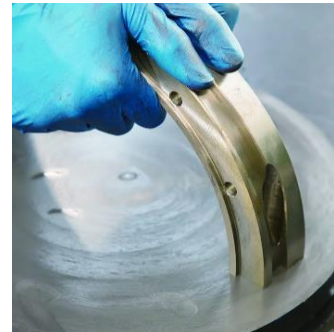


導入実績

2016年3月	釜石港（岩手県釜石市）	6.1m
2017年6月	福山港（広島県福山市）	1.45m
2018年6月	須本港（兵庫県洲本市）	1.2m
2020年3月	焼津漁港（静岡県焼津市）	1.2m
2020年12月	魚市場前（宮城県気仙沼市）	3.2m
2021年3月	南芦屋浜（兵庫県芦屋市）	1.8m

継続的成長を見据え新たな分野へアプローチ

- 関連市況の変動リスクに備え、造船業界以外の分野へのアプローチを推進
- 船舶関連機器の製造受託においては、淘汰が進む中、市場のニーズに即応した製品の投入に注力
- 船舶からの排気ガス規制に対応した環境配慮型製品の製造



開発力を強みに、新たな市場の開拓により販売拡大を目指す

新たな市場の開拓

- 燃料電池自動車（FCV）の燃料となる水素を補給する水素ステーション向け冷却装置としての需要増加
- 商業施設等大型施設への導入に向け、設計事務所との連携強化
- 新たな市場の開拓、販路拡大による導入増加を目指す

病院・介護福祉施設向け導入拡大

- 消防法によりスプリンクラー設置義務のある病院、介護福祉施設などすでに導入実績のある市場を中心に引き続き拡販

導入事例

2007年5月～
福祉施設（広島県）



2011年3月～
南極昭和基地



創業以来、子会社化や営業権取得等を通して事業を拡大
2022年8月期もすでに1社の子会社化を完了
引き続きM&Aを活用し、今後は新規事業への参入を目指す

オーガニック成長

ポンプ事業の安定収益
エリア展開加速
成長事業の拡大

+

M&Aによる成長

既存事業の競争力強化に
つながる企業や事業

各事業の強みを活かした成長によりグループ全体の企業価値向上を目指す

ひと・みず・くうきにかかわる事業（ビジネス）に投資・育成し、
それぞれの企業価値とグループ価値を高める



- 会社概要
- 当社の強み
- 今後の成長戦略
- **2021年8月期連結業績**
- 2022年8月期通期業績見通し
- Appendix

売上高、営業利益ともに前期比増収増益を達成

単位：百万円	2020/8期 実績		2021/8期 予想		2021/8期 実績		前期比	予想比
売上高	6,104	-	6,589	-	6,256	-	102.5%	94.9%
環境・エネルギー	2,961	-	3,545	-	3,561	-	120.2%	100.4%
動力・重機等	2,410	-	2,334	-	2,234	-	92.7%	95.7%
防災・安全	732	-	709	-	461	-	63.0%	64.9%
営業利益	219	3.6%	298	4.5%	276	4.4%	125.9%	92.7%
経常利益	255	4.2%	291	4.4%	295	4.7%	115.6%	101.3%
当期純利益	222	3.7%	182	2.8%	193	3.1%	86.7%	106.0%
1株当たり 当期純利益（円）	104.69	-	78.54	-	82.24	-	△22.45	+3.70

安定的な収益基盤の環境・エネルギー事業が売上・利益とも牽引

単位：百万円

環境・エネルギー事業

2019年12月に子会社化した協立電機工業(株)の業績が通期で寄与
防潮壁「SEAWALL」の大型受注により増収増益達成

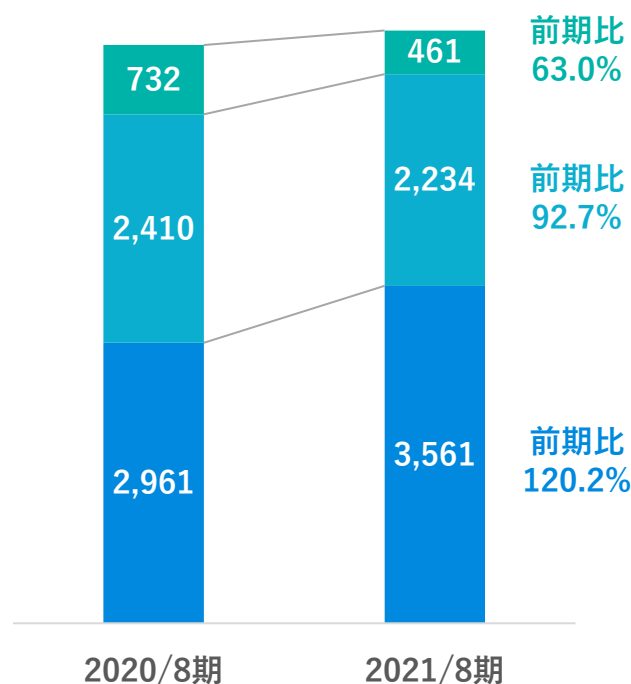
動力・重機等事業

船舶市況の影響により売上減少
利益率の高い製品の取扱開始により増益

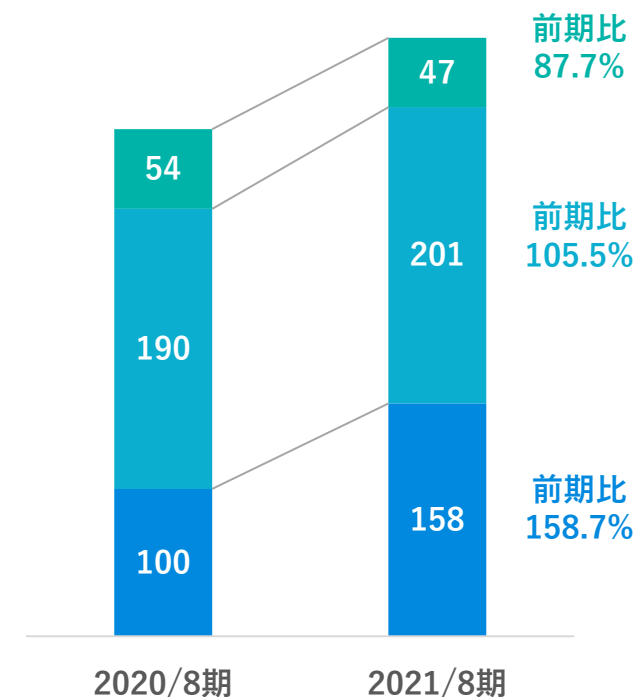
防災・安全事業

主力ターゲットである病院・介護施設向け売上が低迷

セグメント別売上高



セグメント別利益



■環境・エネルギー事業 ■動力・重機等事業 ■防災・安全事業

環境・エネルギー事業は売上高前期比120%と継続成長
他2事業は市況変動やコロナの影響により前期比、期初予想比ともに未達

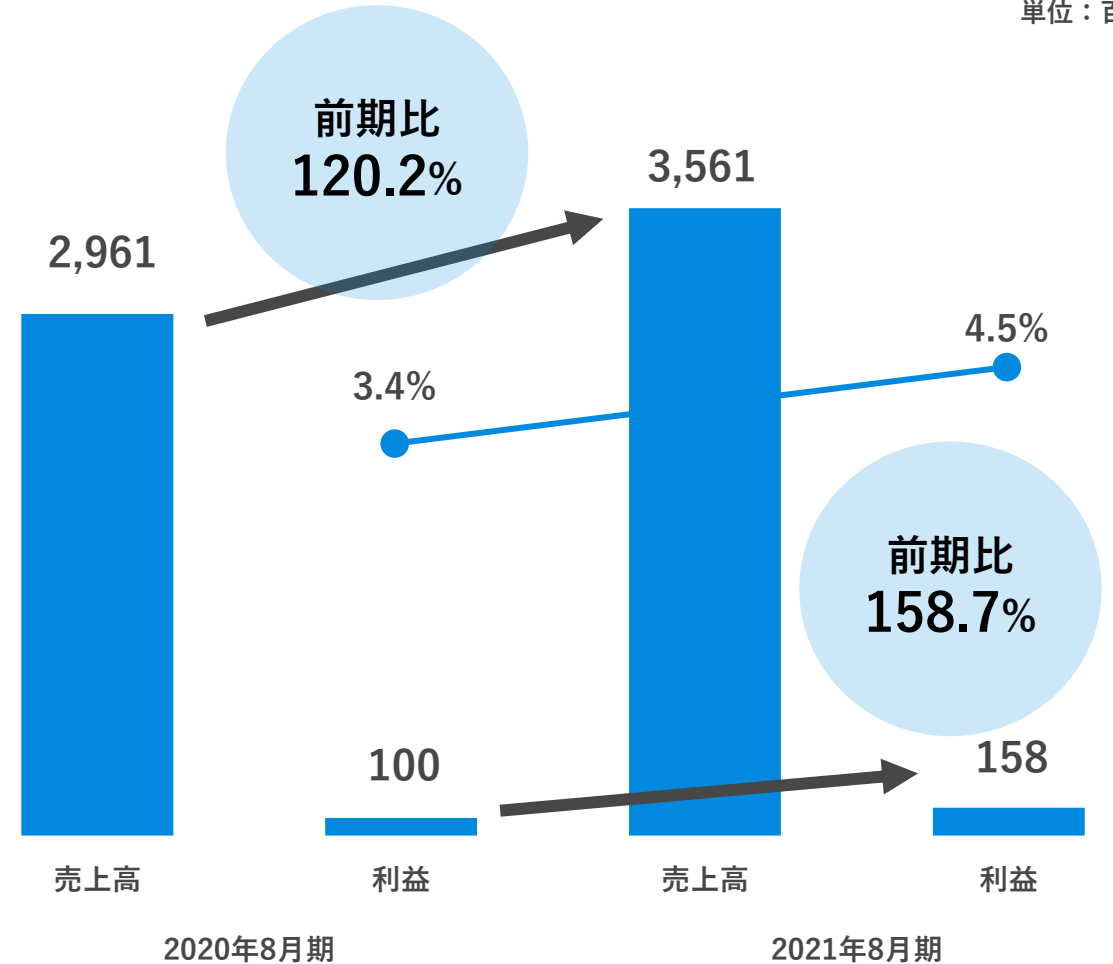
単位：百万円	2020/8期 実績	2021/8期 予想	2021/8期 実績	前期比	予想比
環境・エネルギー事業					
セグメント売上高	2,961	3,545	3,561	120.2%	100.4%
セグメント利益	100	-	158	158.7%	-
利益率	3.4%	-	4.5%	+1.1pt	-
動力・重機等事業					
セグメント売上高	2,410	2,334	2,234	92.7%	95.7%
セグメント利益	190	-	201	105.5%	-
利益率	7.9%	-	9.0%	+1.1pt	-
防災・安全事業					
セグメント売上高	732	709	461	63.0%	64.9%
セグメント利益	54	-	47	87.7%	-
利益率	7.4%	-	10.3%	+2.9pt	-

防潮壁の大型受注とM&Aによる事業基盤の拡大により売上利益ともに増加

単位：百万円

売上高	利益
3,561 百万円	158 百万円
前期比 120.2%	前期比 158.7%

- ・ポンプ等水処理機器及び保守・メンテナンス需要は底堅く推移
- ・防潮壁「SEAWALL」の大型受注結実が寄与
- ・前期子会社化した協立電機工業(株)の業績が通期で寄与

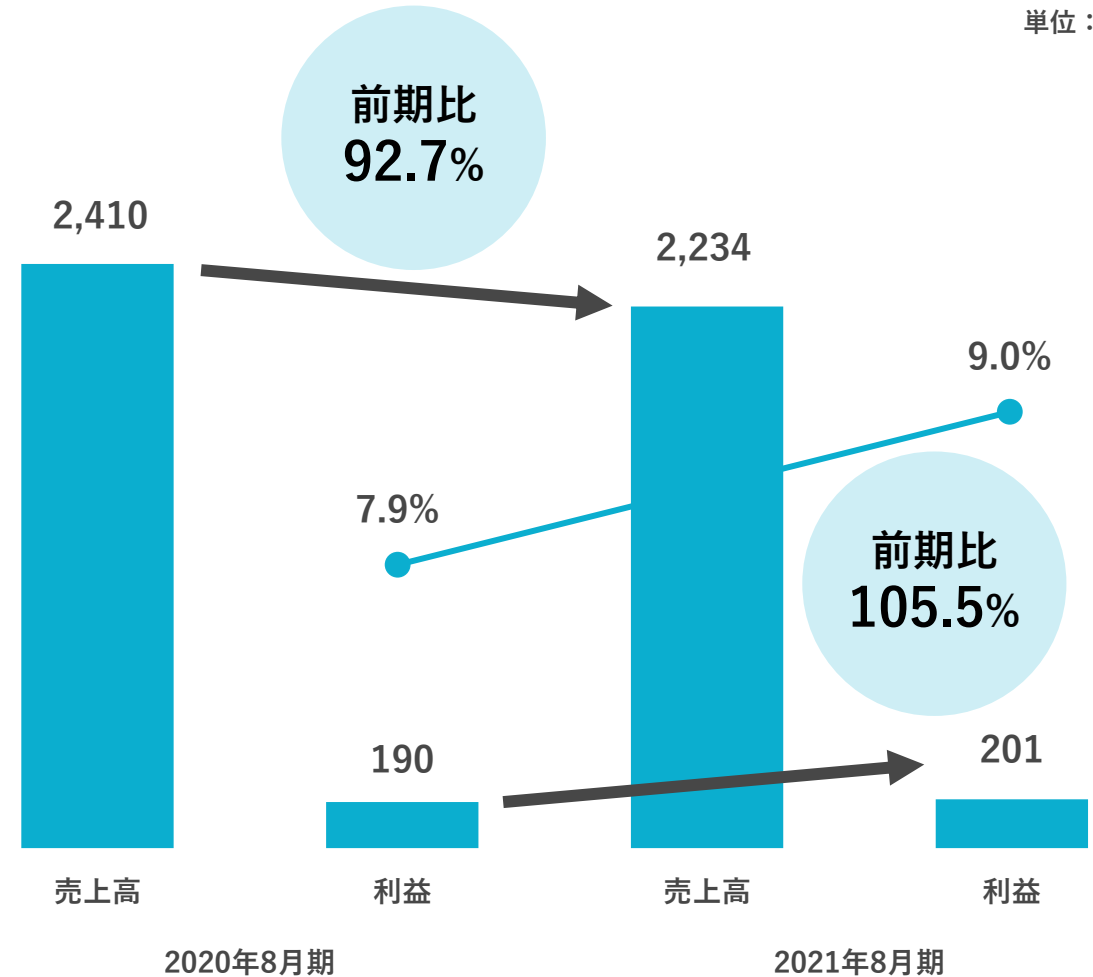


船舶関連の製造受託は低調も、付加価値の高い製品の取扱推進により利益率向上

単位：百万円

売上高	利益
2,234 百万円	201 百万円
前期比 92.7%	前期比 105.5%

- 船舶関連機器の製造受託事業は船舶市況の変動が大きく、前期の反動で低調推移
- その他動力・重機関連機器の製造受託事業では新規の大型案件を継続受注
- 利益率の高い製品の取扱推進により増益達成

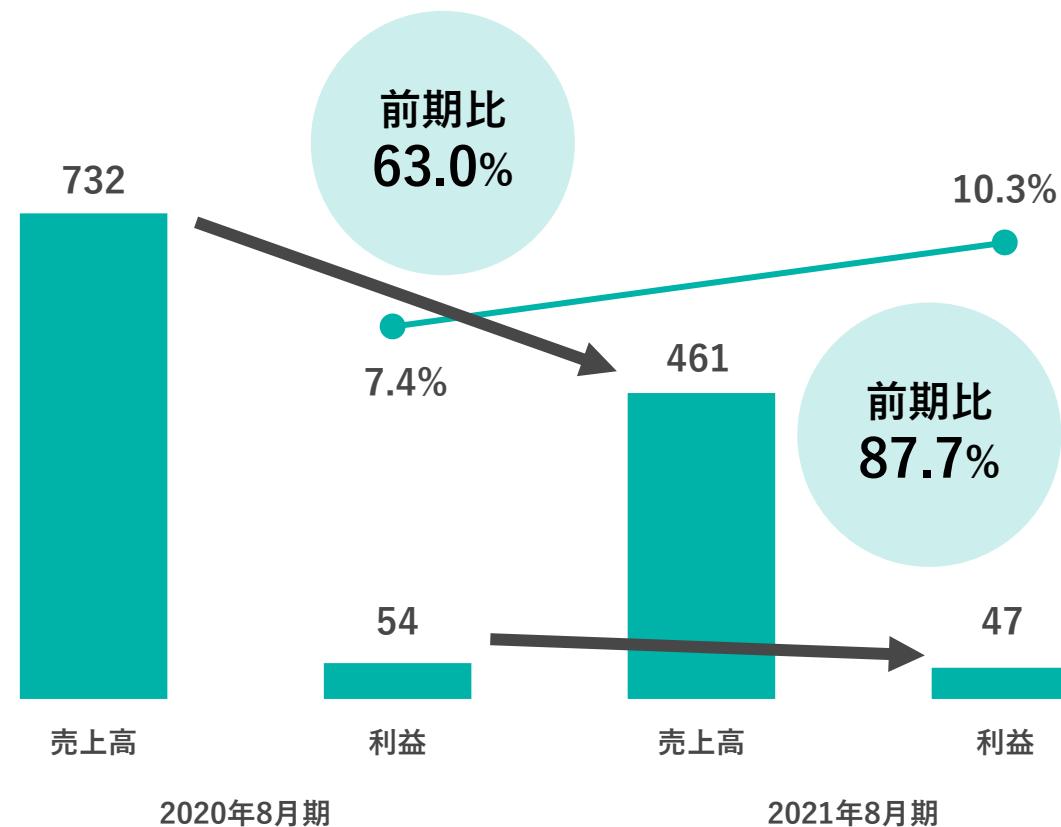


主要顧客の設備投資意欲減退により売上は大幅減少、新たな市場を開拓中

単位：百万円

売上高	利益
461 百万円	47 百万円
前期比 63.0%	前期比 87.7%

- ・ コロナの影響により、主要顧客ターゲットである介護施設や病院施設の防災設備への投資マインドが減退
- ・ 新たな市場として水素ステーション向け販売を開始
- ・ リモートによる営業対応などコスト削減に取り組むも大幅な売上減少をカバーできず



自己資本比率32.8%と引き続き健全な財務基盤を維持

単位：百万円	2020/8期	2021/8期	前年比	増減額	
流動資産	4,698	4,266	90.8%	△432	自己資本比率
現預金	2,250	2,109	93.7%	△141	
固定資産	3,951	4,269	108.0%	318	2021/8期 32.8%
有形固定資産	3,228	3,241	100.4%	13	
資産合計	8,649	8,535	98.7%	△114	
流動負債	3,324	3,109	93.5%	△215	ROA（総資本利益率）
固定負債	2,745	2,628	95.7%	△117	
負債合計	6,070	5,737	94.5%	△333	2021/8期 2.3%
株主資本	2,593	2,796	107.8%	203	
資本金	1,013	1,062	104.8%	49	
資本剰余金	870	920	105.6%	50	
利益剰余金	709	814	114.8%	105	
純資産合計	2,579	2,797	108.5%	218	ROE（自己資本利益率）
負債純資産合計	8,649	8,535	98.7%	△114	
					2021/8期 6.9%

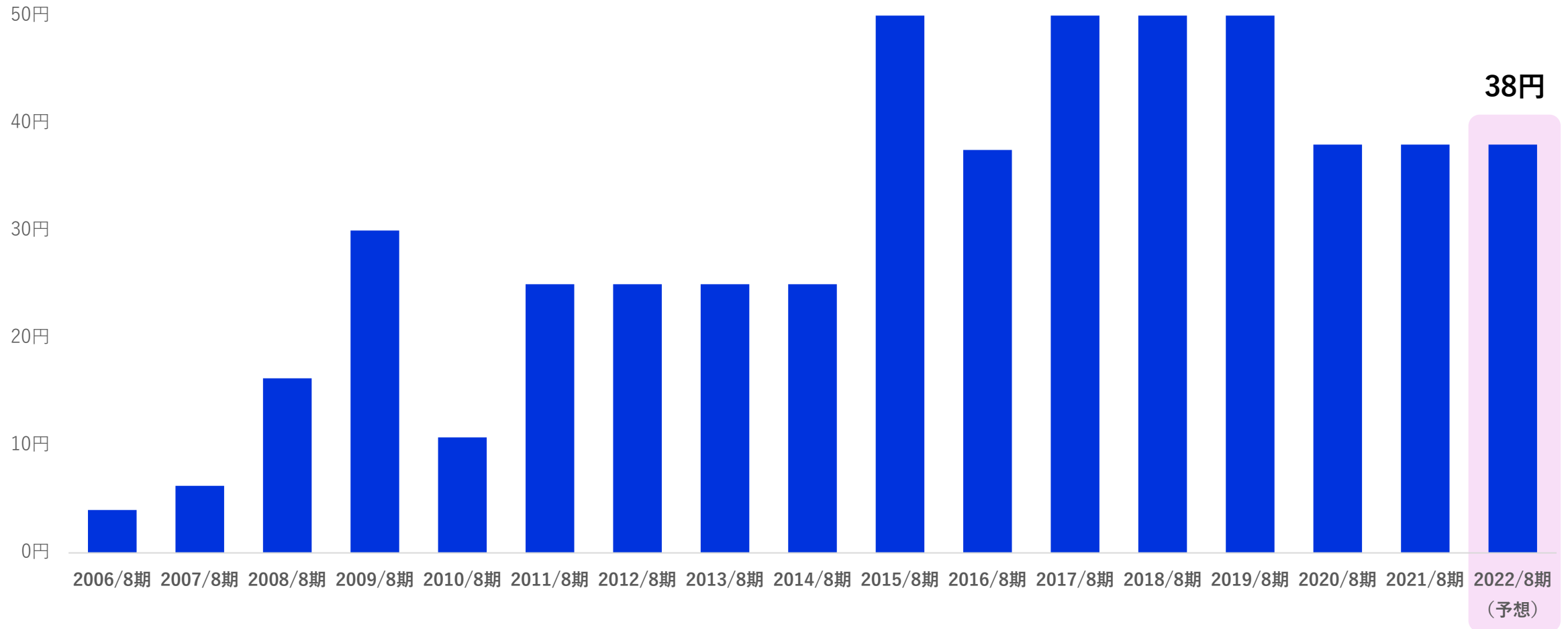
営業CFの拡大により、フリー・キャッシュ・フロー増加

	単位：百万円	2020/8期	2021/8期	増減	内容
営業活動によるCF		104	576	472	税引前当期純利益322 減価償却費157 売上債権の増加△109 棚卸資産の減少164
投資活動によるCF		△31	△429	△398	投資有価証券の取得による支出 △268 有形固定資産の取得による支出 △153
財務活動によるCF		460	△336	△796	短期借入金の減少△100 長期借入による収入1,068 長期借入金の返済による支出 △1,279 株式の発行による収入96
現金及び現金同等物の増減		534	△191		
現金及び現金同等物の期末残高		1,731	1,540		

将来の事業展開に必要な内部留保を見据え、成長と株主還元を両立
業績を考慮しながら配当性向50%以上を目指した安定配当を継続

	2020/8期	2021/8期	2022/8期 予想
1株当たり配当金	38円	38円	38円
連結配当性向	39.6%	46.2%	37.9%

16期連続で配当実施



※当社は2017年9月29日付で普通株式1株につき400株の株式分割を行っております。
 2006/8期（第18期）に株式分割が行われたと仮定し1株あたり配当金額を記載しております。

- 会社概要
- 当社の強み
- 今後の成長戦略
- 2021年8月期連結業績
- 2022年8月期通期業績見通し
- Appendix

成長持続、売上高は前期比109%、営業利益は前期比124%の増収増益を予想

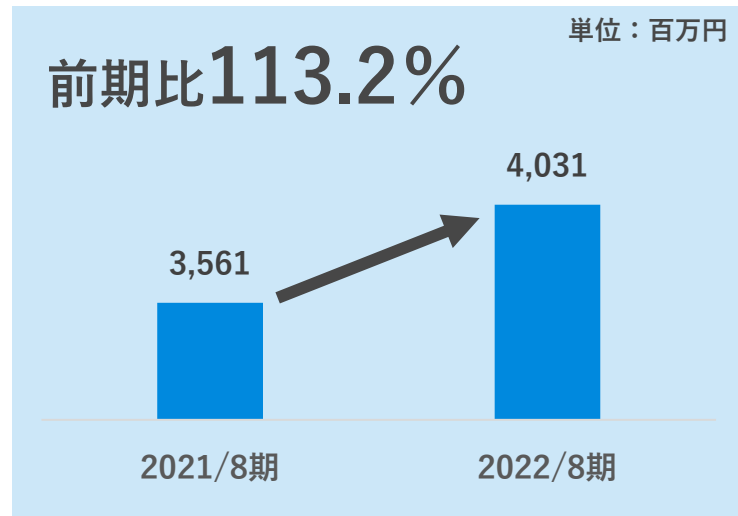
単位：百万円	2020/8期 実績		2021/8期 実績		2022/8期 業績予想		前期比
売上高	6,104	-	6,256	-	6,789	-	108.5%
環境・エネルギー	2,961	-	3,561	-	4,031	-	113.2%
動力・重機等	2,410	-	2,234	-	2,339	-	104.7%
防災・安全	732	-	461	-	419	-	90.9%
営業利益	219	3.6%	276	4.4%	343	5.1%	124.3%
経常利益	255	4.2%	295	4.7%	344	5.1%	116.3%
当期純利益	222	3.7%	193	3.1%	236	3.5%	122.2%
1株当たり 当期純利益（円）	104.69	-	82.24	-	100.39	-	-

人材の適材配置を進め、1人当たり売上高、1人当たり生産性の向上を意識した組織へ

環境・エネルギー事業

売上計画4,031百万円

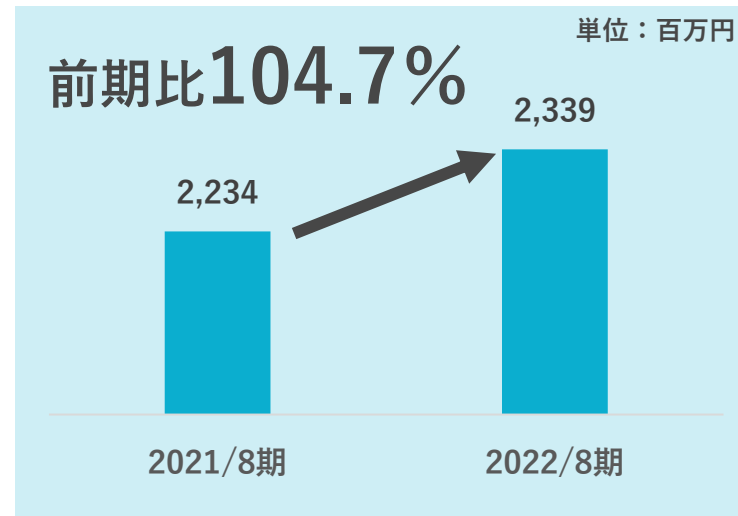
- ・ポンプ等の水処理機器やオゾン発生装置の需要は安定推移の見込
- ・(株)マリンリバーにおける熱交換器等の売上上乘せ
- ・防潮壁「SEAWALL」の確実な刈り取りと大型受注に向けた営業強化



動力・重機等事業

売上計画2,339百万円

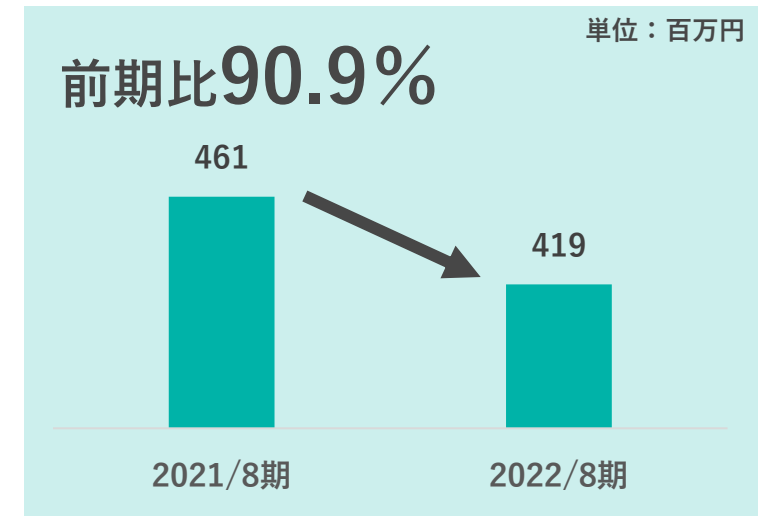
- ・船舶市況の回復に伴い、受注回復を見込む
- ・船舶の排ガス規制に対応した環境配慮型製品の製造受託を強化



防災・安全事業

売上計画419百万円

- ・水素ステーション向け冷却装置として新たな用途提案による受注獲得を推進
- ・営業面でのシナジー発揮を目指し、他社とのアライアンスを積極的に検討中



- 会社概要
- 当社の強み
- 今後の成長戦略
- 2021年8月期連結業績
- 2022年8月期通期業績見通し
- **Appendix**

電力を使用せず、窒素ガスで加圧することで安定した散水を可能にし、 災害時に水道や電気が停止しても作動

世界初の 圧力水槽方式（窒素加圧）

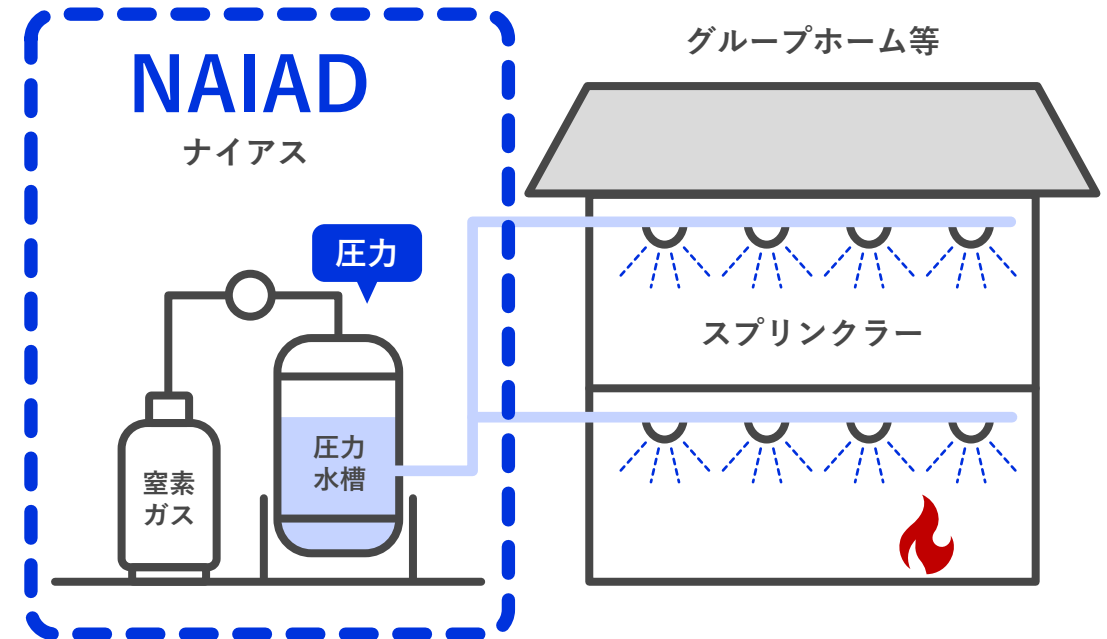
窒素ガスの圧力により、タンク内の水を安定供給する世界初の消火装置

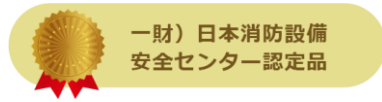
災害時に電気・水道がストップしてもOK

窒素ガスの圧力で送水するため、停電・断水時も確実にスプリンクラーを作動させることが可能

水槽内の水は非常用にも使用可能

水槽内の水は窒素ガスで封印されているため、水が腐敗せず、地震・災害時には、非常用として使用が可能（飲用は不可）





1998/1	当社製品「ナィアス」	一般財団法人日本消防設備安全センター認定品
2002/5	当社製品「ナィアス」	第10回中国地域ニュービジネス大賞を受賞
2003/1	当社製品「ナィアス」	第13回ニュービジネス大賞優秀賞を受賞
2006/7	当社製品「環銘」	経済産業省新連携事業認定
2009/9	当社製品「ナィアス」 NAP-M2400S	日本消防設備安全センター認定品※1
2012/2	当社製品「ナィアス」	第4回「ものづくり日本大賞」優秀賞受賞

※1 2009年9月以降、「ナィアス」NAP13N・NAP-M1200S・NAP6N・NAP-M2400・NAP16N・NAP20N・NAP-M3200が順次、財団法人日本消防設備安全センターの認定品となる

水辺の景観に配慮しながら、津波や高潮発生時に防潮壁の向こう側の様子を伝え、 地域住民の安全を守る

防潮壁設置数増加の背景

東日本大震災以降、水辺の安全確保に対する関心の高まりに伴い、想定水位が従来以上に高く設定され、防潮壁設置数が増加。

防潮壁設置による課題

- 圧迫感のある壁により景観を損なわれる
- 水辺情報の遮断が避難の遅れを引き起こす危険性

ポエックのソリューション

津波対策の問題と地域住民のニーズに応え、
景観と命を守る景観配慮型防潮壁「SEAWALL」

ハイパードライ(HD)技術を用いた羊膜の製造販売事業の拡大

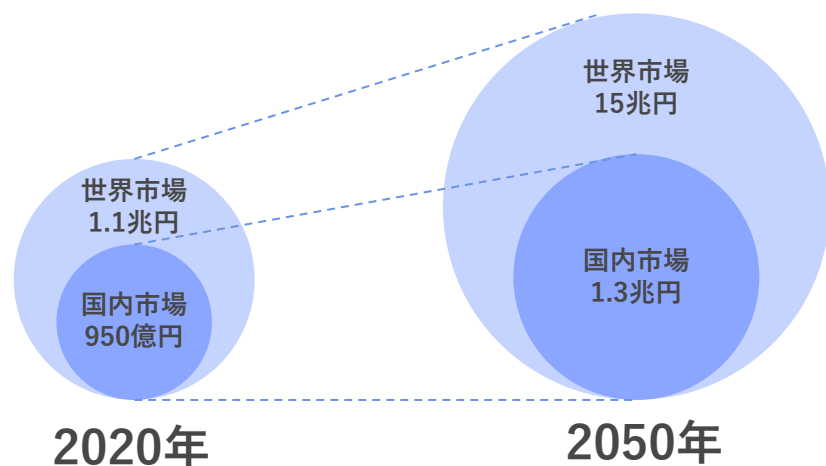


所在地	富山県下新川郡朝日町草野287-1
設立	2014年1月 医療機器製造の許可を保有する株式会社TSS と当社により共同設立
代表取締役	田中 淳
資本金	49.1百万円 当社出資比率13.5%
従業員数	12名

拡大が見込める再生医療分野において、
韓国市場での販売実績を足掛かりにグローバルな事業展開を推進

- 韓国の皮膚科及び眼科領域において販売開始
- 韓国での臨床実績を積み上げながら、日本国内での製造販売承認取得のため、「第一種医療機器製造販売業許可」「医療機器製造業」を既に取得し、準備を継続
- ヒト羊膜を使用した新たな製品開発も開始
- 当社経営陣が取締役に就任し、多様な資金調達手段の確保や内部管理体制の整備をサポート

再生医療周辺産業 市場規模※



進捗

2018年6月	米国FDA（食品医薬品局）登録
2020年9月	韓国現地法人Amnos Korea設立
2019年5月	韓国食薬処から人体組織を取り扱う「ティッシュバンク」 としての許認可を取得
2020年12月	「人体組織製品」として、韓国内での輸入販売が承認
2021年7月	第1号となる受注を韓国の医療機関より獲得

※出所 2018年9月近畿経済産業局地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 「関西再生医療産業コンソーシアム (KRIC) の紹介」

オゾンによるウイルス不活性化技術を活用した製品開発に向け共同研究を推進

東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター
東北大学大学院農学研究科

- 研究テーマ
- オゾンガスがウイルスに及ぼす影響と研究成果に基づく、ウイルス被害に有効なオゾン装置の開発
-
- 共同研究において活用される技術
- オゾンガス発生及びオゾン水製造技術 (2020年～)
 - 次世代放射光技術によるメカニズム解明 FS (2020年～) 次世代放射光施設 (2023年～)
 - ナノバブル技術 (2021年～)

海外展開も視野に入れた新技術開発

- 感染症対策や衛生管理強化を背景に市場規模は今後も底堅く推移
- オゾンによるウイルス不活性化効果は新型コロナウイルス感染拡大でさらに注目を浴び、加速的な技術開発と製品化が求められる
- 当社オゾン装置に対して安全面および機能面でさらに進化したウイルス対応製品の開発と市場への早期投入を目指す



進捗	
2020年7月	共同研究契約締結
	オゾン抗ウイルスシステムの製品化
	多様なウイルスに作用し安全性の高いシステムの確立に向けた開発
2023年	製品化 (予定)

※出所 矢野経済研究所 「非加熱殺菌装置市場規模の推移と予測」 2018年

ご登録いただくと、当社ウェブサイトに掲載される当社の重要な案件情報を公表と同時にメール受信いただけます。

お手持ちのスマートフォンやタブレットなどでQRコードを読み取っていただくか、当社ウェブサイトIR情報ページの「IRニュースメール配信登録はこちら」からご登録ください。



IRメール配信登録

<https://www.magicalir.net/9264/mail/index.php>

当社ウェブサイトIR情報ページ

<https://www.puequ.co.jp/ja/ir.html>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがございます。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

なお、本資料の金額及び比率については、特に記載のない場合、以下のとおりです。

表示単位：百万円（単位未満切捨）

比率については円単位にて算出し、小数第一位未満を四捨五入

